

ヒメコガシラミズムシ *Haliphus ovalis* Sharp

【選定理由】

平野から丘陵地の池沼に比較的普通に生息する種であったが、多くの水生昆虫同様に著しく減少していると考えられる。

【形態】

体長 4～4.3mm。体は長楕円形で黄褐色。上翅会合線に沿った黒色部は細く、合着した中央の紋は円形であり大きくならず、基部の横紋を欠く。

【分布の概要】

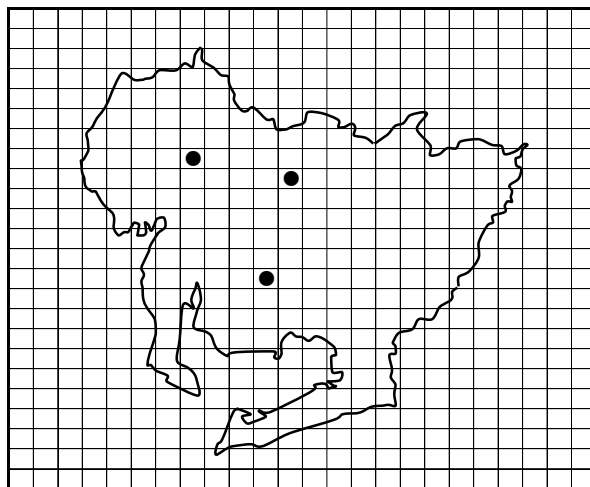
【県内の分布】

岡崎市（穂積・佐藤, 1957）、豊田市（豊田市自然愛護協会, 1996）等の記録がある。かつては平野部から丘陵地に広く分布していたと推測される。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

水草豊かな池に生息するが、生態については何も判っていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

宅地開発、水田の圃場整備等による生息地の消失・改変、農薬散布や生活污水による影響を強く受けたことが考えられる。また、水草の豊富な水域に生息する種であることから、アメリカザリガニによる水域環境の悪化も影響があった可能性がある。

【保全上の留意点】

現在ある自然度の高い池や水辺環境をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。そのためにも脅威となる侵略的外来種の根絶が望まれる。

【引用文献】

穂積俊文・佐藤正孝, 1957. 東海甲虫誌(第3報). 佳香蝶, 9 (31): 1-10.
豊田市自然愛護協会, 1996. (仮)豊田市広瀬台住宅開発事業自然環境調査報告書.

【関連文献】

中根猛彦, 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32 (2):61-67.
佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)